

審議会等の会議結果報告書

課所名

教育総務課 学務係

会議名 令和6年度 諏訪市いじめ問題対策連絡協議会

開催日時 令和6年12月9日(月) 午後1時30分 ~ 午後3時00分

開催場所 諏訪市役所 201会議室

出席者

(出席者)三輪会長、森委員、血脇委員、増村委員、山戸委員、濱委員、小口委員(代理:加藤氏)、藤森順三委員、渡邊委員、伊藤委員、清水委員
(欠席者)杉山委員、中野委員、原委員、竹野入委員、小島委員、藤森和彦委員、西山委員
(事務局)細野教育次長、伊藤教育総務課長、倉波生徒指導担当係長、柳平生徒指導担当、竹内指導主事、中澤指導主事、平林指導主事
(傍聴者) 3名

資料

○資料1:いじめの重大事態の調査に関するガイドライン(抜粋)
○資料2:令和5年度いじめに関する調査結果
○資料3:令和6年度 諏訪市いじめ防止の取り組み 各校の状況(全体)
○資料4:いじめ問題への取り組みについて(案)
○別資料:諏訪市いじめ問題対策連絡協議会等条例、諏訪市いじめ防止等のための基本的な方針、諏訪市こども家庭センターすわ☆あゆみステーションリーフレット(2枚)

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会

2 自己紹介

3 会長選出

4 会長挨拶

5 報告

(1)「諏訪市いじめ防止等のための基本的な方針」について

・重大事態の定義について

(2)令和5年度 いじめに関する調査結果

・積極的な認知を進めたことにより、認知件数の割合は、全国と同程度となった。

・令和5年度に認知されたいじめは年度内に90%以上解消し、未解消事例についても令和6年度に全て解消されている。

(3)令和6年度 諏訪市いじめ防止の取り組み 各校の状況(全体)

6 意見交換

「いじめ問題への取り組みについて(案)」に対する意見交換

(1)案の要点

○教育委員会等の取組

・いじめ事案の早期把握と対応

・「子ども相談窓口」の設置

・すわ☆あゆみステーションとの連携 等

○学校の取組

- ・チェックリストの活用
- ・学校・学級づくり、チーム支援体制による対応
- ・SOS の出し方教育
- ・情報リテラシー教育

(2)委員の意見

○スマホの保有率の高さに起因するネットトラブルについて

- ・SNS でのやり取りに子どもたちが悩みを抱えている。
- ・インターネットについては、ある程度ルールを決めながらやっている。
- ・ネット内の人間関係がそのまま学級内の人間関係に投影されることがある。
- ・高校等でも同様のトラブルがあるが、狭い人間関係に捕らわれないよう、指導が必要である。

○すわ☆あゆみステーションでの取組について

- ・学校関係者以外に相談できる場所があることも重要である。
- ・学習支援の会議においても、家庭環境に関わる問題を共有できるようになってきている。
- ・児童虐待事例も含め、早期発見、早期対応ができています。これからは予防も重要になる。
- ・「居場所」につながっている子どもが情報を持ってきて、学校と共有するということもある。ネットワークが広がるとうい。

○児童生徒、学校等の対応について

- ・我が子に対して、時には保護者が言いにくいことも思いきって言葉をかけていかなければならない。
- ・安心して話せる信頼関係を構築するには、半年から1年くらいの期間が必要となる。
- ・まずは担任の先生、そして背景にある学校との信頼関係の構築が土台となる。
- ・授業を通じて話を聴ける子どもを育てていくことができるよう学校内で話をしている。
- ・担任以外にも校長教頭を含めて相談できるチャンネルを増やす取組を行っている。
- ・人権教育を通じ、自分が大事と思えるようにしないとけない。
- ・イベント開催時には、子どもの視点に立って企画している。
- ・レジリエンスが弱いと感じる若年世代が多い。少しの苦い経験を乗り越えていくことも必要と感じている。
- ・トラブルが起こった際に、すぐに大人が解決策を示すのではなく、子ども自身に考えさせていくことも手段の一つ。

○チェックリストの活用について

- ・先生の振り返りとしてチェックシートを活用することにより、いじめの早期発見や防止につながるのではない。

(事務局より)

- ・児童生徒にとって、いじめは認めづらい、あるいはアンケートに書きづらいものであるため、その意味で先生の書くチェックリストとの併用が必要である。今後、チェックリスト、アンケートとも、項目を見直していきたい。

7 その他

8 閉会